

随筆

貴重な水辺のいくつか—9

オーストリア・湖水地方の水辺

亀田 泰武*

1. はじめに

ザルツブルグの東、美しい山々の合間に湖が点在するザルツカンマーグート地方はドイツ国境に近いオーストリアの中央部にあり、古くから塩が採掘されていた。地名は塩（ザルツ）と御料地（カンマーグート）の意味で、この辺は塩にまつわる地名がある。ザルツブルグ市の他、ハルシュタットのハルは昔ここに住んでいたケルト族の言葉で塩のことであり、岩塩鉱は世界最古とされている。貴重な塩がとれるのでハプスブルク家が宮廷の財務局の管轄としていた。一方、平均標高が高く、温泉があるので、王侯貴族の避暑地、保養地としても利用された。景観も良く、映画サウンド・オブ・ミュージックのロケ地になった。



図ー1 ザルツカンマーグートの湖

2. ドナウ川とライン川

オーストリアは東西が500kmと細長い国で特に西側半分は幅60kmくらいしかない。国土の殆どがドナウ川流域で、西端の一部がライン川流域のボーデン湖に面している。ザルツカンマーグート地方の南には3千メートル級のアルプス山脈がそびえていて、山々からの水は湖に流れ込み、水は北に流れ、ドナウ川に入る。

ドナウ川はドイツ南部の森林地帯「シュヴァルツヴァルト（黒い森）」がそのはじまりで、ストラスブルグ近くの、フランス国境に近いところにあたる。

となるとスイスから流れてきたライン川との位置関係が気になるところで、ドナウ川の始点のわずか約30km南をライン川が西に流れ、回り込んで独仏国境線を北上していく。

ドナウ川は東方向に流れ、東欧各国を含む10ヶ国を通過して黒海に注ぐ重要な国際河川で全長は2850kmもある。

ザルツマンゲートの湖からの流れは約北に約50km流れてドナウ川に注ぎ、東に流れるドナウ川は、バツハウ渓谷を通過してウィーンへ流れていく。

3. バード・アウスゼー

南東にある小さな街。けっこう大きなホテルやペンションがあって、ツアーではここに宿泊した。アルトアウス湖に発する西からの流れとグルントル湖に発する北東からの流れが街の中心で合流していた。川の兩岸の柵や橋の欄干には花が飾られ、街中がよい雰囲気であった。合流点付近は河川公園になっている。

合流ポイントには円形の回廊のような橋が架けられ一回りできる。二つの川とも雪解け水のせいかすごい流れになっていたが上流に湖があって濁質が沈殿する

*KAMEDA Yasutake, 21世紀水倶楽部理事

URL <http://www.mizumirai.net/sitema/>



バード・アウスゼー
小さな橋の欄干にも花が



ハルシュタットの街1
狭いところに街が張り付いて。湖には艇庫



バード・アウスゼーの河川公園
河川が合流するところに円形の橋



ハルシュタットの街2
代表的な風景。撮影スポットから

のか流れはとてもきれいであった。この流れはハルシュタット湖に注ぐ。

4. ハルシュタット湖

正式にはハルシュテッター湖というようである。最近カレンダーなどで紹介されるようになり、ツアーで水辺の写真として一番期待していたところであった。

筆者は雨男で天気恵まれないことが多く、3日前のインスブルックは曇り、2日前のザルツブルグ滞在中ではずっと雨であった。しかし1日前のモント湖などの湖、次の日のハルシュタットと2日間のザルツカンマーグート滞在中はいい天気が続く、現地滞在10日のうち、気に入った写真の半分以上はここで撮れたものであった。湖は最大長さ約6km 最大幅約2kmで面積は8.55km²、最大水深125mである。

湖の縁の猫の額の狭いところに街がへばりついている。このため大きなホテルはできないし、道路は街の上の山腹を走っているが、19世紀遅くまで、ここには

ボートか山道でしか行けなかったところであった。

人口は千人で教会が二つあり、湖に面した尖塔が、代表的な風景となっている。教会のそばに噴水があるマルクト広場があり、回りにレストランや土産屋が多い。広場近くに遊覧船乗り場があり、湖のそこを回っている。鉄道の駅は湖の反対側にあり、船で街まで行き来する。

なにもないような街であるが、岩塩があったため歴史は古く、1846年に紀元前800から400年頃のケルト人の古代墓地が発掘され、地中海文明に匹敵する鉄器を使用する高度な文明があったことが分かってきた。

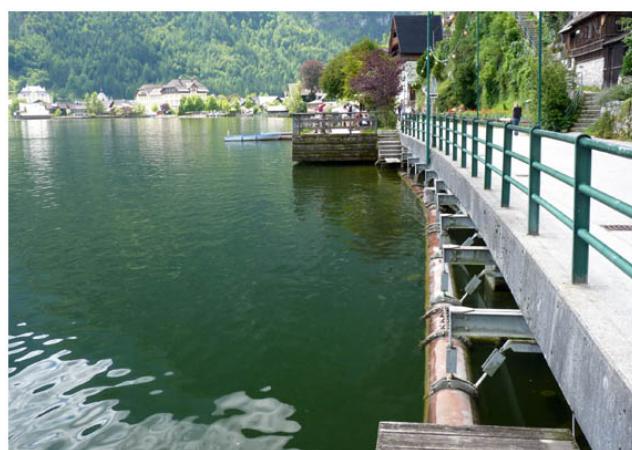
○塩鉱山見学

すぐ近くの塩鉱山は、現在見学コースになっている。クリスティーナ鉱と呼ばれ1719年に開かれた。

街のすぐそばにそびえるプラッセン山にあり、最初ケーブルカーで上がり、山道を歩いて坑道入り口で、作業衣を着て中に入る。350mのトンネルを抜けると岩塩層に行き着き、岩塩の生成、鉱山の歴史などがパ



塩鉱山へのケーブルカー
街からすぐのところ



下水道幹線らしい配管
湖沿いの橋に添架されていた

ネルやプロジェクターで紹介されている。もともと死海のように、乾燥地帯で海の一部が切り離され、海水が干上がって岩塩層ができ、それがアルプス造山で山の中に巻き込まれたもので、ずいぶん高いところまで盛り上がったものである。

見学はその後塩湖を通してトロッコで入り口に戻る。塩の採掘は岩塩を切り出すのではなく、岩塩層に水を入れて濃い塩水にして取り出す方法がとられていた。

見学コースの中に昔、作業員が使った滑り台が2カ所あって、見学客が滑って降りるようになっている。最初のはブレーキをかけておそろおそろ滑ったが、2回目は言われるとおりに寝るようにしてブレーキをかけず滑ったらスピードが出て怖かった。軽量級なのだろうか、ツアー同行者達のなかで一番早かった。ここでは滑る途中、速度を計測し表情を撮影して、購入希望の見学者に速度記録が入った写真を販売するようになっている。

トロッコ列車は、狭い坑道を走る席が1列のもので、天井が低く、壁もすぐそばと、危なっかしいのにけっこうなスピードで走り、日本では運転の許可が下りないと思われる。

鉱山の歴史は古く7千年前からと言われている。紀元前に鉱山の事故で埋められ、塩漬けになった工夫が1734年に発見された。

○ハルシュタットの下水道

狭い街で車が入らずバス駐車場から街に入っていくが歩く途中の湖に沿った橋の下に太い鉄管がつり下げられているのを見つけた。下水道幹線と考えられ、他に設置場所がなく、橋に添架したものでないだろうか。

ザルツマンゲート地方にさよならしてバッハウ溪谷



ハルシュタット周辺の街の下水処理場
北に向かうバスから撮影

に向かう道でハルシュタット湖下流のトラウン川に沿った道路を走っている時、汚泥消化槽のようなものを見つけ、慌てて写真に撮っておいてあとで調べたら下水処理場で、湖から6 kmも下流であった。

ツアーで公共施設に遭遇することは少なく、あってもすぐ通り過ぎるなど写真を撮ることは非常に難しい。日本では地方に行くと学校が立派で存在が分かるが、欧州では殆ど目にとまらない。

5. バード・イシュル

南のハルシュタットから流れて、街の南で東に向きを変え、街を左回りしてきたトラウン川に西のヴォルフガング湖から流れてきたイシュル川が合流するところ。古くから貴族のリゾートとして開け、別荘や邸宅が散在している。塩分含有量の高い温泉があり、温泉療法の場所にもなっている。街は縦横500mくらいで鉄道の駅もある。

イシュル川の北にはフランツ・ヨーゼフ皇帝の別荘

があり、皇帝は毎年夏をここで過ごした。

中心街北のイシュル川のところから南のトラウン川まで散策したが、街は非常にきれいで、至る所に花壇があってきれいな花が咲いていた。トラウン川のところでは、クラシックな鉄橋がかかり、その脇にはハブ



バード・イシュルのトラウン川
左にクラシックな橋



レハール劇場前の噴水
回りの花壇もきれいだった



ザンクト・ギルゲン
外輪の遊覧船が行き来

スブルグ家の色である黄色の落ち着いた建物があり、下はカフェになっていた。また少し上流にはレハールという音楽家の名前のついた劇場があって、その前庭の噴水が午後の日差しを浴びて非常にきれいであった。

6. ヴォルフガング湖

リゾートとして有名なところである。湖は南北約10.5km、面積13km²で最大水深は114m。湖の回りにいくつか街がある。

○ザンクト・ギルゲン

ザンクト・ギルゲンは湖西の端にあり、ここはモーツアルトの母アンナ・マリアが生まれたところで後にモーツアルトの姉のナンネルが結婚して同じ家に住み、家も残されている。湖畔にはレストラン、土産店が並んでいる。



シャーフベルグ登山列車
向こうに見えるのが頂上駅



ヴォルフガング湖
シャーフベルグ山から。
すぐ下がザンクト・ヴォルフガングの街